

NEWS RRM

[ニュース] Regional Resource Management



地域資源マネジメントのブランド

研究科長 江崎 保男

新緑の季節となった。スキー場としてその名を知られる神鍋高原(兵庫県豊岡市)を流れる稲葉川には、「二段滝」とよばれる景勝地がある。ご覧のように、糸を引くような水流が見事な二段重ねの景観を生んでいる。神鍋山は火山であり、約2万年前に起きた繰り返しの噴火により、溶岩が川を流れ下ったという。なお、溶岩の流出が断続的であったので、この段差は溶岩の固まった時間差を空間的に表現していることになる。また、新緑の山に分け入ったことのある人なら、この写真から森の香りと小鳥の囀りを思い出すであろう。「五感はいつもつながっている」からである。

さて本年度に入り、研究室がいっそうにぎやかになった。地域資源マネジメント研究科の修士1期生たちが巣立っていったのと入れ替わりに、博士前期課程13名と博士後期課程2名の新生が加わり、学生数が30に至ったからである。

「地方創生」の掛け声にあわせてか、「地域資源」あるいは当研究科の名称「地域資源マネジメント」そのものを冠にした学部学科が各地の大学に誕生したという。「本家」としては喜ばしい限りである。「人は模倣の動物」、イギリスの行動学者であり、現代の進化論を完成させたリチャード・ドーキンスが放った名言である。

人は赤ん坊として生まれたときは、無垢な存在、そのあと、ほぼ白紙の脳に、歴史に裏打ちされた「生きる知恵、そして種々の教養」を刷り込んでいく。模倣されるということは、私たちのオリジナル・アイデアが認められたのではないか、ブランド化への一歩を踏み出したのではないか、そんな少々先走った思いが脳裏をよぎる。

とはいえ、博士後期課程がスタートしたこの年、私たちはこれまでにも増して引き締めねばならない。「地域資源マネジメント学」の確立に向けて、本格的な教育研究を展開する時期に突入したということだ。私たちの役割は、なお一層模倣してもらえないような新しい学問を創造することにある。

コウノトリの野生復帰や山陰海岸ジオパークにおいてそうであるように、歴史を踏まえた各種の学問・教養を基盤にしながら、目の前に現れる新たな段差を乗り越える挑戦を続けていく、教員一同が、そのような決意を固めている今日この頃である。

Information

夏のオープンキャンパス

Information 01

大学院の受験を具体的に考えている方、興味がおありの方へ。オープンキャンパスでは、大学院や入学試験の概要を紹介し、施設・展示のご案内をいたします。夏季は、7月2日(土)午後、豊岡ジオ・コウトリキャンパスで開催します。

具体的な研究テーマや学習についての相談も可能です。

平成29年度入学生募集

Information 02

博士前期課程・博士後期課程ともに下記の予定で入学試験を実施します。

博士前期課程(A日程)・博士後期課程(第1回)

試験区分	募集人員	出願期間	試験日
【博士前期】 一般選抜 (学生・社会人・外国人)	12名	平成28年 8月3日(水)～ 16日(火)(必着) 事前に受験資格審査が必要な場合は、 7月22日(金)～ 8月7日(日)に審査書類をご提出ください。	平成28年 8月27日(土) 11:00～ 豊岡でも神戸でも受験できます。
【博士後期】 一般選抜 (学生・社会人・外国人)	2名	平成28年 8月3日(水)～ 16日(火)(必着) 事前に受験資格審査が必要な場合は、 7月22日(金)～ 8月7日(日)に審査書類をご提出ください。	平成28年 8月27日(土) 11:00～ 豊岡でも神戸でも受験できます。

平成28年度 RRM 公開講座 「地域の宝をみつけよう」

Information 03

私たちの大学院では市民の方々を対象にした公開講座を実施しています。今年度は、21回開催する予定ですが、そのうちの6回目から13回目までの概要を紹介します。

日時	時間	テーマ	場所・講師
7月3日(日)	10:30～12:00	6回目/語ろう 「朝来の自然とコウトリ」	朝来市シルバーセンター、三保周辺 講師:大迫 義人・佐川 志朗・先山 徹
	13:00～16:00	7回目/歩こう 「山東を歩こう」	
8月7日(日)	10:30～12:00	8回目/語ろう 「地滑りがつくった地形とその利用」	新温泉町役場温泉総合支所、但馬牧場公園、湯村温泉など 講師:先山 徹
	13:00～16:00	9回目/歩こう 「照来の牧場や棚田を作った大地を見よう」	
9月4日(日)	10:30～12:00	10回目/語ろう 「日本海ができるころの地層と生き物」	香美町ジオパークと海の文化館、下浜の流痕など 講師:松原 典孝
	13:00～16:00	11回目/歩こう 「香住の海岸で足跡化石を見つけよう」	
10月9日(日)	10:30～12:00	12回目/語ろう 「日本が大陸だったころのマグマがもたらしたもの」	豊岡市出石古代学習館、出石の街並み、白糸の滝など 講師:先山 徹・中井 淳史・山室 敦嗣
	13:00～16:00	13回目/歩こう 「そばと焼き物のまち、出石を歩こう」	

受講される方全員の氏名・住所・連絡先・参加希望の回を明記のうえ、ファックスまたは電子メールでお申し込みください。なお、参加費は各回500円(小中学生300円)です。

(申込先ファックス:0796-22-5200
申込先メールアドレス:geosakiyama@rrm.u-hyogo.ac.jp)



兵庫県立大学大学院地域資源マネジメント研究科 RRM

〒668-0814 豊岡市祥雲寺128(兵庫県立コウトリの郷公園内)
兵庫県立大学豊岡ジオ・コウトリキャンパス
Tel. 0796-34-6079 Fax. 0796-22-5200
E-Mail: u_hyogo_toyooka@ofc.u-hyogo.ac.jp

<http://www.u-hyogo.ac.jp/rrm/>



写真提供: 松原 典孝(二段滝)
小谷 真央(相岡集落)
得田 雅人(はさかり岩)
中野 崇志(農地、計2点)
足立 徹(木材など、計4点)
野口 真磨子(コウトリ)
丸山 勇気(トンボ)

地域資源マネジメント研究科 R R M 第一期生の研究成果

Research Presentation

地域資源マネジメント研究科は、本年3月に初めての修士課程修了生、6名を送り出しました。それぞれは、2年間の在学中にテーマを自ら設け、地域に飛び出して調査に励み、研究に打ち込みました。その姿勢と成果は、後につづく大学院生にとって大きな支えになっています。本号では、第一期生6名の研究成果の一端を紹介します。

The class of 2016

地域づくりが内発的であるために

小谷 真央

(オリカ産業株式会社営業部業務課)



現代農山村における地域づくりでは、住民自らが担い手として活動を主導し、資源においては地元にあるものを積極的に活用することが大切だとされるなど、地域の自律的、環境調和的な地域形成を目指すことが担い手の基本姿勢として求められています。このような「内発的地域づくり」は如何にして持続可能なのでしょうか。

論文の事例として取り上げた兵庫県香美町村岡区祖岡集落の「あけぼの会」の40年近くにわたる地域づくりでは、活動に遊楽性を包含させることによって、内発性が強化するという事態において巧みな対応を見せていました。農山村における内発的地域づくりが持続的であるためには、地域づくり活動に包含される遊楽性が重要です。そして現代を生きる村落住民たちは日常の生活の延長線にある遊楽性を包含した地域づくり活動を通じて形成された自然や人々との関係性の中に、村に暮らし続ける根拠を見出しているのです。

Research Presentation 1

山陰海岸ジオパークの観光への活用について

得田 雅人

(豊岡市環境経済部大交流課定住促進係)



私は、ジオパークを観光に結びつける方策を提案することを目的に研究を進めました。山陰海岸ジオパークを事例に、Web解析やアンケート調査、聞き取り調査を行い、ジオパークへの興味関心と来訪者満足度との関係性を検証しました。その結果、ジオパーク活用のポイントは(1)美しい風景(2)アウトドア・アクティビティ(3)ガイドであるという結論を得ました。ジオパークに関しては、美しい風景への興味関心が高く、アウトドア・アクティビティを利用し、ガイドを利用することで来訪者満足度が高まることが明らかとなりました。アウトドア・アクティビティ事業者、ガイドを含めてジオパークエリア内でネットワークづくりを行うことが効果的です。ネットワーク全体で美しい風景やガイド付きでアウトドア・アクティビティを行っている様子をSNSやホームページで定期的な情報発信を継続することができれば、より持続可能な地域の発展が期待できます。

Research Presentation 2

ほ条整備済区域内の不耕作地への農業参入の可能性

中野 崇志

(養父市産業環境部農林振興課)



管理が放棄された、ほ条整備済の農地



農業参入者により養蜂のためのレンゲ畑へと再生された農地

近年、中山間地域では、ほ条整備済区域内であっても不耕作地が増えつつあることが問題となっています。一方で、企業等が農業分野に参入し、不耕作地を利用した農業経営を行う新たな動きが生まれています。私の研究は、中山間地域のほ条整備済区域内への農業参入に着目し、参入者に対する集落側の意向の形成に何が影響するのかを明らかにするものです。

現在の各集落の耕作状況に影響を与える営農環境として「水利」「農地の立地」「換地」「農業団体のガバナンス」営農上の調整・管理機能」の4つが抽出されました。これらの営農環境と参入者に対する意向との関係を分析したところ、用水量が不足する集落は参入者に対して否定的な意向を持ち、山林に隣接する農地が多い集落や農業団体のガバナンスが高い集落は参入者に対して肯定的な意向を持つことが分かりました。

参入者を肯定的に捉える集落を増やしていくことが、農業参入の可能性を広げることにつながります。そのためにも、各集落の農業団体のガバナンスを高めていく取り組みが必要となるでしょう。

Research Presentation 3

山を豊かにする中小の木材流通システム

足立 徹

(朝来市市長公室あさご暮らし応援課)



Research Presentation 4

管理不足の人工林が増加する要因の一つに立木価格の低下があげられます。その背景の一つに従来型の木材流通の多段階性があります。2000年代以降は、大規模製材工場を中心とする流通で、従来と異なるシステムが構築されつつありますが、原木の付加価値の向上に貢献してきた中小規模な製材工場は減少し続けており、大規模な流通システムとは異なる形での課題克服が必要となっています。

そこで、兵庫県内で人工林率の高い6市町において、従来型流通と異なる木材の流通販売システムを構築している中小規模な事例を抽出し、従来型流通の課題の克服と利点の代替がなされているかを検証しました。

検証の結果、事例として抽出された2つのシステムは、事業規模を除くと、課題の克服と利点の代替が概ねなされていることが確認されました。また、大規模な流通システムとの相互補完やすみ分けがなされていることも確認されました。最後に、他地域での展開を考える場合、木材流通に精通し、木材の価値を引き出す知識と技術のある人材がシステム成立の要件であると考察しました。

複雑なコウノトリ社会の解明を目指して

野口 真磨子

(公益財団法人日本野鳥の会)



Research Presentation 5

コウノトリの繁殖開始年齢は3歳であり、小鳥の1歳と比べると遅いです。そのため、コウノトリ個体群には多くのフローターが存在しています。これらのフローターとペアの関係はどうなっているのでしょうか？ハクセキレイの研究では、非繁殖期である冬季、餌なわばりとして単独なわばりを持ち、このなわばりへのフローターの滞在をなわばり所有者が許し、フローターがサテライト個体(追従者)としてなわばり防衛を手伝っていることが明らかとなっています。

私は、繁殖期にコウノトリの3ペアを対象とした研究を行い、2ペアのなわばり内にフローターが居候として滞在していることを発見しました。居候はペアに滞在を許されており、他個体がなわばりに侵入してくると、ペアに代わって追払い行動を行っていました。つまり、ペアは居候を自身の繁殖なわばりに置くことにより、なわばりを維持する戦略をとっていることが明らかになったのです。

兵庫県豊岡市に生息する動物群集

丸山 勇氣

(株式会社建設環境研究所本社環境部)



Research Presentation 6

兵庫県豊岡市では、コウノトリの野生復帰のために環境保全型農法の一つであるコウノトリ育む農法が行われています。コウノトリ育む農法は生物の生息に寄与すると考えられている多くの要件を課しています。しかし、一部の要件についての知見はあるものの、それ以外の要件についての研究はあまり進んでいません。

本研究では、コウノトリ育む農法と従前の慣行農法のそれぞれの水田における動物群集の農法間の差異の検討を行いました。さらに、コウチュウ類およびトンボ類幼虫に着目し、その生息に寄与する要因の検討を行いました。いくつかの分析の結果、水田の陸生および水生動物群集は農法の違いが群集構造に影響を与えることが示唆されました。また、コウチュウ類は周辺の水域景観の多様性が、トンボ類幼虫は前年秋季の圃場の湛水期間が生息に寄与していることが示唆されました。